

講演要旨

- ① 「インド横断、自転車紀行」－Asian Highway1・パキスタン国境からカルカッタまで、2,069 km－
サイクリスト、通訳案内士(Licenced guide)、会社員 芳井 健一

アジアを自転車で走り始めたのは 1992 年の大連からです。

今回は 2013～2015 年の間で夏休み（11 月）、連休（2 月）、年始と冬の乾季に 3 回、延べ日数 14 日間でインド北部のインダス / ガンジス水系平野部を北西部のパキスタン国境から東部のカルカッタまで横断。多くの人々が移動した文化の大動脈、旧 Great Trunk Road、現在の Asian Highway 1 号線！インド国内区間の National Highway 1 号線及び 2 号線を走行しました。街道で目に入った風景、鳥や動物、人と暮し、食べ物など、リアルなインドを紹介します。そしてこの道を辿る旅はまだまだ続きます。

- ② 「2014、ムスタンの未踏峰 “Mansail 6,242 m” 遠征記」－女子大生 4 人と過ごした 40 日間、
ムスタンの旅－ アルパインクライマー、ファシリテーター、国立登山研修所講師 谷口 けい

2014 年秋、日本山岳会学生部女子隊の顧問として、ネパール国ムスタン地方の未踏峰に遠征した。

目指すは、2014 年にネパール政府が新たに開放した 100 座程の高峰の一つ。かつてムスタン王国と呼ばれ、独自の自治で発展してきたチベット仏教域にあり、チベットとネパールの国境線上に聳える標高 6242 m のマンセイル峰。ムスタンは、1991 年に開放されたばかりのかつての「塩の道」でもあり、河口慧海師の足跡があらこちらに残されている魅力的な土地でもあった。未知の山へ向かう冒険的楽しみと共に、守られてきたムスタンの文化にも出会った。

- ③ 「ブータンの小さな診療所」－ブータン王国東部タシガン県カリンでの試み－

京都大学白眉センター 特定助教、医師、医学博士、AACK 坂本 龍太

カリン診療所を拠点として行っている高齢者への健診を中心とする包括的な保健体制づくりの試みについてお話したい。我々は、村人自身が主体となり、患者さんを診療所で待つだけではなく、診療所に来られない村人も往診を通じて積極的に取り込む仕組みを目指している。懇話会では、プロジェクトの話とともに、現地に伝わる神や魑魅魍魎の世界、医療を担う毒吸男の話、魅力あふれる人々やその日常の暮らしぶりについて紹介したい。

- ④ 「鄭和とムハンマド・チョンホ」－雲南碑文のナゾ－ 立教大学文学部教授 上田 信

海洋強国を掲げる現在の中国は、海への進出のシンボルとして今から約 600 年前の明代に南シナ海・インド洋に遠征した鄭和を顕彰している。しかし、その実像はそうしたシンボルになり得るのだろうか。雲南省滇池の畔にある鄭和記念公園の内に、鄭和の父の墓碑がある。その碑文には多くのナゾが隠されている。そのナゾを解きほぐしながら、祖父と父がメッカ巡礼者であった「鄭和」が経験した過酷な運命と、彼が海に乗り出した動機を探る。現在のインドネシアにおける鄭和をめぐる状況も紹介する。

- ⑤ 「改革開放後の中国と新華僑」－変容する世界のチャイナタウン－

筑波大学教授（生命環境系 地球環境科学専攻） 山下 清海

改革開放後、中国から新たに海外へ渡った新華僑の流入により、老華僑によって形成された世界各地の伝統的チャイナタウンは、大きく変容しつつある。また、新華僑の増加により、全く新しいチャイナタウンも形成されている。本発表では、中国および世界各地でフィールドワークを実施してきた報告者の体験にもとづき、中国の「僑郷」（華僑の故郷）および日本を含む世界各地のチャイナタウンの変容と現状について報告する。